

中国(青島・南京)柔道指導派遣 体験レポート

OBGS1117 川野 聖人



現在、松前柔道塾での少年指導をしています。私は指導に携わるにあたって今までの自身の経験を伝えることも重要であるがそれ以上に子供達への接し方や危機管理や状況判断、またどのような指導方法が最善であるかと考えていかなければならないと感じていました。そのような時に今回の中国柔道指導派遣のお話をいただき、現地での指導体験をはじめ、朝飛先生の指導方法や柔道への考え方についてなど多くのことを学ぶことができました。さらに、中国の方の人間性や少々ではあるが中国の文化にも触れることができました。



中国の子供達や柔道選手をみて感じた事は強い弱いに限らず多くの方が意欲的に指導した事を覚えようとする姿勢がとても凄いと感じました。どこの場所について 指導してもまた小学生から大人まで自ら質問してきたり、更に詳しく教えてほしいと聞いてきたりと意識の高さに驚きました。また南京での強化選手の練習では 練習時間は1時間半と短く練習内容もシンプルであった事には驚きました。しかし女子の練習は部分稽古や一本勝負といった細かい練習内容、さらに練習時間も 男子に比べると長く中国の女子選手の質の高い練習にも驚きました。中国女子柔道選手がオリンピックをはじめ各国際大会で結果を出しているのにも納得ができました。



中国はテレビでしか見た事がなく行く当時は大気汚染の問題や中日間の問題等を含め様々な問題が取り沙汰されていました。そんな事を考えると決して良いイメージではなかったのが本心でした。しかし実際に行ってみるとまったく違うイメージであり現地の人も優しく接してくれ、名の無い私を歓迎してくれたことを大変嬉しくおもいました。



実際に中国での指導では朝飛先生を中心に指導を計画していき実行していきました。数多くの有名選手を輩出している朝飛先生の指導方法にはポイントをつかん だ的確な指導、更にユーモアあふれる楽しい練習方法などこんな方法があるのだなと一緒に指導している私になるほどと痛感させられることばかりでした。しかしそんな朝飛先生であっても子供達や選手の指導方法に何が最善であるか悩んでいると言うお話をされた時は驚きました。現在多方面で指導の在り方が話題になっています。体罰やパワハラなどといった指導者と生徒の関係性などどこに趣旨を置いて指導していくのか悩むばかりだと感じています。このような時だからこそしっかりと問題を明確にし徹底した問題解決に取り組むべきだと私自身思っています。また小学生を主に指導するにあたっての問題や指導方法など朝飛先生 からたくさん学ばせていただきました。



デンマークでの海外研修をはじめ、今回の中国での指導体験は普段、海外の人とかかわることの少ない私に柔道以外での人と人をつなぐものについても考えることができました。言葉の通じないなかでどのようにしたら私の考えが通じるのであるか、ジェスチャーを使用したり、知っている少ない単語でなんとかコミュニケーションとることができました。しかし、コミュニケーションと言ってもほんの少しであり海外の主体である英語を使うことができればもっと多くの海外の人と深くコミュニケーションをとることができるのではないかと海外にも興味を持つようになりました。

今回の中国柔道指導の体験は様々な事に関して自身の視野が広がったと感じています。私は今回の経験が松前柔道塾での指導や今後の自分自身の柔道に多く影響すると考えています。これらの経験を活かしていきたいと考えています。

